

社会貢献活動

[illegible]

INDEX

トップメッセージ	P2	スポーツ支援	P14-16
社会貢献活動 基本方針	P3	芸術支援	P17-18
地域支援	P4-6	大学との連携	P19-21
ネーミングライツ	P7	教育支援	P22
大阪万博への出展	P8-9	自然保護、美化・緑化	P23
オープンイノベーション／技術開発関連拠点	P10	農業支援	P24
介護福祉	P11-12	防災・減災・医療支援	P25
障がい者就労支援	P13	災害への寄付、医療インフラ支援、防火・防災啓発	P26
		海外支援	P27

地球の恵みを、社会の望みに。



持続可能な未来のために 社会とともに歩む エア・ウォーターグループ

エア・ウォーターグループは「地球の恵みを、社会の望みに。」をパーパスに掲げ、持続可能な社会の実現と地域社会への貢献を目指しています。

その実現に向けて、自治体との連携や「ふるさと応援Hプログラム」などを通じた地域支援をはじめ、環境保全やウェルネスの向上、スポーツや芸術・文化の振興、災害支援など、多岐にわたる社会貢献活動に取り組んでいます。

さらに、産学官連携やオープンイノベーションを通じた新技術の創出や人材育成にも注力し、地域や社会が抱える課題の解決に貢献しています。

これらの取り組みは、地域社会との信頼関係の構築や企業価値の向上につながる無形資産への投資と捉え、長期的な視点で継続的に推進しています。

今後も、社会の期待に応える企業として、持続可能な未来のために挑戦を続けてまいります。



エア・ウォーター株式会社
代表取締役社長 CEO 兼 COO

松林良祐

社会貢献活動 基本方針

エア・ウォーターグループは、空気や水といった地球資源を活かし、技術とビジネスモデルを融合させることで、人々の暮らしと産業に不可欠な製品・サービスを創出しています。私たちの事業活動は、地球資源を枯渇させることなく、持続可能な社会の実現を目指すものであり、社会が抱える多様な課題に対して、柔軟かつ的確に応えることができると考えています。

社会貢献活動においては、以下の重点分野を軸に取り組みを推進しています

私たちエア・ウォーターグループは、社会の変化や地域のニーズを的確に捉え、社内外のステークホルダーと協力しながら、持続可能な社会貢献活動を推進し、より良い未来の創造に寄与してまいります。

1

地域社会との連携



「地域を支え、地域とともに生きる企業」として、自治体や地域団体との連携を通じて、地域の課題解決に貢献します。地域のニーズに応じた支援活動を展開し、地域経済の活性化や地域社会の発展に寄与します。

2

地球環境保護と持続可能な社会の実現



空気や水など地球の資源を利用した事業を展開する中、地球環境を維持する活動は企業の持続的な発展に不可欠であると考えています。私たち自身が率先して環境保全活動に取り組み、持続可能な地球環境の実現に貢献します。

3

ウェルネスの向上



すべての人々のウェルネス（健やかな暮らし）の向上を目指し、健康・福祉分野への支援、産官学連携による研究・開発支援、障がい者の就労支援などを通じて、心身ともに健やかな社会の形成を目指しています。

4

教育・スポーツ支援を通じた次世代育成



教育支援やスポーツ支援を通じてグローバル社会や地域社会で活躍できる次世代の育成に貢献します。地域のマラソン大会などへの協賛を通して、各地域のスポーツ振興に取り組んでいます。

5

芸術・文化の振興



美術館や国際的な芸術祭への協賛を通じて、地域社会の皆さまに芸術・文化を楽しんでいただける機会を支援するとともに、地域の芸術・文化の発展に貢献し、豊かな感性や創造性の育成に寄与しています。

6

災害支援と防災活動



自然災害時の支援活動を積極的に行います。被災地への物資提供や義援金の寄付を通じて、地域の復興を支援します。また、防災・減災に関する取り組みを通じて、地域の安全・安心を確保します。

地域支援

ふるさと応援H(英知)プログラム

エア・ウォーター北海道は、エア・ウォーター創業の地の一つである北海道の地域活性のため、道内の自治体向け寄付制度「ふるさと応援H(英知)プログラム」を創設しました。2023年度から2030年度までの8年間で総額10億円を上限に、道内179市町村を対象に、エア・ウォーターグループの成長軸である「地球環境」や「ウェルネス」の観点を含め、さまざまな社会課題の解決に貢献する事業を募集します。社外有識者などで構成する委員会での審査を経て、2023年度は18市町村、2024年度は19市町村に対して寄付を実施しました。プログラム名称の「H」には、HOKKAIDO(北海道)、HOPEFUL(希望)、HUMANITY(人間性)、HARMONY(調和)、HORIZON(地平線)の意と、エア・ウォーターグループの経営理念「創業者精神を持って空気、水、そして地球にかかわる事業の創造と発展に、『英知』を結集する」が込められています。

<寄付先自治体と対象事業(一部抜粋)>

積丹町

ウニ殻を活用した藻場造成や
昆布飼料の製造で有効活用を検討



日高町

身近な草花を見てみよう!
調べてみよう!
自然観察キットと図書貸出事業



東川町

資源米由来のごみ袋を
ライスレジンで製作



上士幌町

上士幌町における
自動運転バスの社会実装



標津町

和紙の原料「ノリウツギ」の
事業化に向けた地域住民への
浸透と地域経済の活性化



Focus

令和6年度「地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)に係る大臣表彰」を受賞



表彰式にて
伊東良孝大臣(左、当時)とエア・ウォーター北海道社長の庫元

ふるさと応援Hプログラム



エア・ウォーター北海道は、内閣府が表彰する令和6年度「地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)に係る大臣表彰」を受賞しました。

この表彰は、地方創生応援税制の活用において、特に顕著な功績をあげ、他の模範となると認められた活動を行った企業や地方公共団体を対象としています。地域の社会課題解決に取り組む市町村を幅広く支援する独自性のある取り組みが評価され、受賞に至りました。

地域支援

自治体(北海道内) との連携

さまざまな自治体と連携協定を締結

エア・ウォーターは、1929年に札幌で医療用ガスの供給事業を開始して以来、エネルギーや農業・食品など事業領域を広げながら、北海道の暮らしや産業を支えるさまざまな事業を展開してきました。北海道をはじめ、三笠市、東神楽町、大樹町、美瑛町と包括連携協定を締結しており、グループ会社も含め日本各地のさまざまな自治体と連携協定を結んでいます。多様な事業領域と地域の事業基盤を活用し、事業活動を通じた社会課題の解決に貢献しています。

北海道 エア・ウォーターが北海道と包括連携協定を締結



目的

相互に連携・協力しながら地域の活性化や課題解決に取り組む

内容

- 新エネルギーや省エネルギー、環境関連産業の振興に関する事項
- 林業・農業の振興に関する事項
- 健康づくりに関する事項など

東神楽町 エア・ウォーターとエア・ウォーター北海道が東神楽町と包括協定を締結



目的

地域活性化ならびに養殖事業を基軸とした農商工振興を図る

内容

- 高品質な美味しいサーモンを作るための生産技術やノウハウの確立
- サケの放流学習や食育学習などを通じた環境保全やフードロスなどSDGsの達成に向けた取り組み

大樹町 エア・ウォーター北海道が大樹町と包括連携協定を締結



目的

地域の活性化や住民サービスの向上に資する協業を行う

内容

- 新エネルギーや省エネルギー及び環境に関すること
- 地域産業の振興に関すること
- 航空宇宙の推進に関すること など

三笠市 エア・ウォーターとエア・ウォーター北海道が三笠市と包括連携協定を締結



目的

再生可能エネルギーや地域資源を有効活用することにより、地域の発展及び脱炭素社会の実現を図る

内容

- 石炭地下ガス化による水素製造及び利活用等の推進に関すること
- CO₂の削減や処理・利活用に関すること
- バイオマス、雪氷冷熱等の再エネ利用に関すること など

美瑛町 エア・ウォーター北海道が美瑛町と包括連携協定を締結



目的

「再生可能エネルギー」と「農業食品」を中心とした事業創生を通じた地域創生のモデルづくり

内容

- 新エネルギーや省エネルギー及びカーボンニュートラルに関すること
- 地域産業の振興に関すること
- 地域の課題解決に関すること

地域支援

自治体(長野県、和歌山県内) との連携

エア・ウォーターグループは全国各地の事業所やグループ会社の拠点を基盤に、地域の自治体や団体と連携した取り組みを展開しています。地域に根差した事業活動を通じて、安心・安全な暮らしの支援、環境保全、災害対応など、地域の持続可能な発展に貢献しています。これからも地域の皆さまとともに歩み、事業を通じて地域の未来をともに創り出すことを目指してまいります。

松本市

エア・ウォーターが松本市と「健康寿命延伸都市・松本の創造に向けた連携に関する協定」を締結



エア・ウォーターは、2017年6月に長野県松本市と超少子高齢型人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりを目的に、包括的な連携協定を締結しました。医療・健康関連事業などを通じて「健康寿命延伸都市・松本」の創造に寄与することを目指し、地域の産業経済の活性化や雇用創出、防災・減災など多方面での協力を進めています。また、2024年8月には、エア・ウォーター東日本が松本市を含む地域の自治体・企業と共同で「松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社(MZCE)」を設立しました。2050年までの脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの地産地消を推進する官民連携の地域エネルギー事業会社として、地域課題の解決と経済循環の構築に貢献しています。MZCEは2025年4月より事業を開始し、小売電気事業などに取り組んでいます。

大田市 白馬村 松川村 池田町

AW・ウォーターが長野県大田市、白馬村、松川村、池田町と災害発生時における飲料水提供に関する協定を締結、大田市と「信濃おおまち みずのわプロジェクト」にも参画



ミネラルウォーターなどを製造・販売するAW・ウォーター(現・ゴールドパック)は、災害時の飲料水供給体制の強化と、水資源の保全に積極的に取り組んでいます。2013年7月の長野県大田市を皮切りに、2024年12月には白馬村と、2025年4月に松川村、6月に池田町と、それぞれ災害発生時における飲料水提供に関する協定を締結。地域住民の命と健康を守るため、備蓄と供給体制の整備に努めています。ウォーターサーバーはお湯を使うことができるため、災害時に避難所などで飲料水の提供だけではなくミルクやスープを作ることが可能となります。また、大都市の水資源を将来にわたり守るため、「信濃おおまち みずのわプロジェクト」の一環として2025年5月に設立された「水と地下水環境保全協議会」にも参画し、行政・大学・企業と連携した持続可能な地域づくりに貢献しています。

九度山町 上富田町 田辺市

プラスが和歌山県九度山町と災害時における物資供給に関する協定を締結、上富田町や田辺市とも災害時における一時避難場所の使用等に関する協定を締結



エア・ウォーターグループで、和歌山県、大阪府、奈良県を中心に農水産物直売所「産直市場よって」を展開するプラスは、2014年7月に和歌山県九度山町と「災害時における物資供給に関する協定」を締結。2025年3月には同県上富田町と、5月には田辺市と、それぞれ「災害時における一時避難場所としての使用及び物資の供給に関する協定」を締結しました。今後も町の指導や支援を受けながら、防災訓練や講習を実施し、災害への備えを強化するなど、地域活性化の貢献とともに地域の役に立てよう日々の運営に取り組んでいきます。

ネーミングライツ

エア・ウォーターグループは、ネーミングライツ（施設命名権）の取得を通じて、スポーツ振興や文化支援、地域活性化など、さまざまな社会貢献活動を推進しています。地域の皆さまに親しまれ、身近な存在として感じていただけるよう、今後も地域に根ざした取り組みを継続してまいります。

松本市

「松本市総合体育館」の
ネーミングライツを取得、
「エア・ウォーターアリーナ 松本」
の愛称で地域とともに歩む



エア・ウォーターは2024年4月、長野県松本市の「松本市総合体育館」のネーミングライツを取得しました。エア・ウォーターグループは、長野県内でさまざまな事業を展開し、特に松本市内には多くの事業拠点を有しています。多くの方々にご利用いただき「エア・ウォーターアリーナ松本」の愛称が定着するよう、さまざまなPRを行うとともに、地域の皆さまや次世代を担う子どもたちのスポーツ振興に貢献してまいります。

参照

<https://www.awi.co.jp/ja/news/release/news-24160354333051619926.html>

赤穂市

「赤穂市立図書館」の
ネーミングライツを取得、
「日本海水赤穂ライブラリー」
が誕生



日本海水は、同社赤穂工場が位置する兵庫県赤穂市の「赤穂市立図書館」のネーミングライツを取得し、2024年4月より同施設の愛称を「日本海水赤穂ライブラリー」と命名しました。「塩のまち赤穂」の歴史にゆかりがある日本海水の名前を皆さまに知っていただくとともに、地域に根ざした企業として、赤穂のまちづくりや次世代の育成に寄与する取り組みを継続してまいります。

参照

<https://www.nihonkaisui.co.jp/files/uploads/20240424Ako.pdf>

赤穂市

「赤穂海浜公園」内にある遊園地の
ネーミングライツを取得、
「タテホわくわくランド」で
にぎわいを創出



2012年11月、タテホ化学工業は、兵庫県赤穂市の赤穂海浜公園内にある遊園地のネーミングライツを取得し、新たな愛称を「タテホわくわくランド」としました。タテホ化学工業は赤穂市加里屋に本社を構え、地域に根ざした事業活動を展開しています。施設の改善や来園者サービスの向上、赤穂のにぎわい創出に協力できればと考え、ネーミングライツを取得しました。

大阪・関西万博に出展

エア・ウォーターグループは2025大阪・関西万博に出展しました。大阪ヘルスケアパビリオンに、未来の暮らしを体験できる「ネオライフスタイルLDK」を展示し、「ミライの食と文化ゾーン」では『ミライのミックスドリンク』を提供。さらに「未来社会ショーケース事業」のグリーン万博ではCO₂回収の実証を行うなど、異なる3つのエリアで大阪・関西万博へ参画しました。世界共通の課題解決に向けたイノベーションの推進や共創活動をきっかけとして、継続的に取り組んでまいります。

「エア・ウォーターが 大阪・関西万博に出展する意義とは？」



2025大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」、コンセプトは「未来社会の実験場」です。持続可能な社会を目指すSDGsや「Society 5.0」の実現に向け、世界中の英知とアイデアが集結します。エア・ウォーターは産業ガス供給の事業基盤を活かして、エネルギーや医療、農業・食品など事業領域を拡大しています。現在は「地球の恵みを、社会の望みに。」をパーパスに「地球環境」と「ウェルネス（健やかな暮らし）」の2つの成長軸に沿って、社会課題解決への貢献を目指しています。

今回の万博への出展は、エア・ウォーターが本社を構える大阪という場所から、「人類共通の課題解決に向けたアイデアを創出する」という万博の趣旨に共鳴し、産業の発展に寄与したいという想いを背景に実現しました。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/special-2025022801.html>

1970年の大阪万博にも エア・ウォーターは出展！



エア・ウォーターは、1970年の大阪万博にも出展していました。当時の社名は「ほくさん」。北海道でLPガス供給を本格化させ、「寒冷地に暮らす人々の生活を便利に、豊かにする」ことを使命に掲げていました。1963年には、日本初のLPガス式ユニットバス「バスオール」を開発し、公営住宅などに導入。まだ多くの人々が銭湯を利用していた時代のことです。1970年万博の「生活産業館」では、暮らしを支える企業が出展し、ほくさんは複合材料を用いて家族の団らんを抽象的に表現した空間を展示しました。LPガス供給から住宅設備へと事業を広げる過渡期にあり、万博のテーマと企業の方向性が一致したタイミングでもありました。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/special-2025022801.html>

“未来の暮らし”の体験コンテンツ 「ネオライフスタイル LDK」



大阪ヘルスケアパビリオン リボン体験ルート「ミライの都市ゾーン」内に展示。リビング、キッチン、ウィンドウの3つのゾーンで構成され、ミライの“運動・くつろぎ・食事”など、エア・ウォーターが考えるミライの暮らしを体験することができます。当ブースのアテンダントが着用するユニフォームは、使わなくなったポリエステルを原料にした素材「BRING Material™」を使用し、当社製品ReCO₂ STATIONと障がい者デザイナーの作品を掛け合わせたスカーフ・チーフを着用して来場者をおもてなしいたします。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/release/news-2024122001.html>

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/special-2025022801.html>

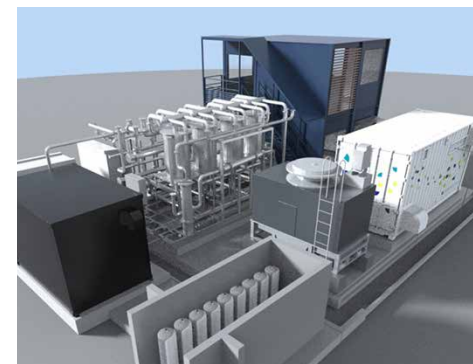
「ミライのミックスドリンク」を提供する 「AIR WATER NEO MIX STAND」



大阪ヘルスケアパビリオン「ミライの食と文化ゾーン」内に「AIR WATER NEO MIX STAND」を出店。店舗では、ミライのミックスドリンクを提供。エア・ウォーターの、産業ガスをはじめとする事業で培った技術を活かして、北海道の旬の美味しさを最大限に引き出しました。2台のロボットアームがジュースの調合から、ふたの取り付けまでをこなし、まるでショーのような調理シーンを目の前で見ることができます。接客はスタッフがっており、温かいサポートやサービスは人の手で届け、飲食業界の社会課題である人手不足にはロボットが対応することで、人とロボットが共に働く次世代の飲食体験を提供します。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/special-2025031901.html>

次世代型 CO₂ 回収装置 「地球の恵みステーション」



大阪・関西万博「グリーン万博」内バックヤードに設置された「カーボンリサイクルファクトリー」では、エア・ウォーターが次世代CO₂回収設備「地球の恵みステーション」を実証展示。新規吸収材（Na-Fe系酸化物）と「ReCO₂ STATION」により、万博会場の排ガスから低濃度CO₂を効率回収・液化。一部を大阪ガスのメタネーション施設へ供給し、燃料やドライアイスとして再活用します。来場者向け見学ツアーも実施し、2050年カーボンニュートラル社会に向けた地産地消型CO₂リサイクルモデルを提示しています。

※本実証は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のグリーンイノベーション基金の補助事業の一環です。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/special-2025042201.html>

オープンイノベーション ・ 技術開発関連拠点

エア・ウォーターは自社独自の研究はもとより、他企業や大学、研究機関などとの産学官連携を通じて、新たな事業を生み出す場としてオープンイノベーション施設を立ち上げています。社会のニーズを探究し、次世代事業の創出を推進するとともに、地域や産業の未来を担う人材の育成にも力を注いでいます。

兵庫県
神戸市

人々の健やかな「暮らし」を創造する、研究・開発拠点 「国際くらしの医療館・神戸」

「国際くらしの医療館・神戸」は2019年5月、国内最大級の医療クラスターである神戸医療産業都市にオープンした人々の健やかな「暮らし」を創造する、研究・開発拠点。2020年に世界で初めて実用化した、神経を失った歯に対しての新たな治療法である歯髄再生治療をはじめとして、医療関連サービス事業や歯髄関連事業、周術期医療事業の研究開発、発信をしています。2025年4月に「再生医療研究所」を設置し、医療機関と協力して歯髄幹細胞を用いた再生医療技術の開発や、脂肪幹細胞等を用いた再生医療の実用化の研究を推進しています。今後、研究成果として得られた知見を活用して、再生医療関連事業を拡大し、人々のウェルネスに貢献してまいります。



参照 <https://site.awi.co.jp/ki/>

北海道
札幌市

北海道の社会課題解決に関わる新事業の 創造・開発・発信拠点「エア・ウォーターの森」

2024年12月、北海道の社会課題解決に資する新事業の創造・開発・発信拠点として、札幌市桑園に「エア・ウォーターの森」がオープンしました。本施設はエア・ウォーター北海道が運営し、大学、企業、自治体、スタートアップなど多様な団体と連携しながら、オープンイノベーションを通じて新たな価値の共創を目指しています。施設内には、個室、ウェットラボ、コワーキングエリアなどが整備され、入居者間の活発な交流が生まれています。一般利用も可能な屋上ガーデン「So-En



TERRACE」やレストラン「EUREKA」も併設され、地域とのつながりも大切にしています。現在、農業・食品分野やエネルギー分野における実証プロジェクトが進行しており、持続可能な農業モデルやカーボンニュートラル社会に向けたイノベーションの発信拠点となっています。

参照 <https://airwater-souen.jp/>

大阪府
摂津市

「ウェルネス（健やかな暮らし）」に 関わる新事業の創造・開発拠点 「エア・ウォーター健都」

2023年9月、人生100年時代の「ウェルネス」に関わる事業の創造、開発、発信拠点として北大阪医療健康都市（健都）に『エア・ウォーター健都』をオープンしました。

日本は超高齢社会を迎え、ホームケア、リハビリテーション、福祉・介護サービスなど、地域包括ケアの重要性が高まっています。さらに、「予防医療」の観点から、オーラルケアや機能性食品など、コンシューマーヘルスのニーズも拡大中です。「健都」という立地を活かし、地域社会や住民の皆さま、国立循環器病研究センターをはじめとする国内外の専門機関や協力企業など産官学民との共創を促進。ウェルネスに関わる新事業の創造、開発、発信を強化することで、健康長寿社会に貢献してまいります。



参照 <https://awkento.awi.co.jp/>



長野県
松本市

地産地消エネルギーによる 資源循環モデルの開発施設 「地球の恵みファーム・松本」

長野県松本市に、エネルギーの地産地消・資源循環モデルの実証施設「地球の恵みファーム・松本」を2025年10月にオープンしました。バイオマスガス化プラント、メタン発酵プラント、陸上養殖プラント、農業ハウスの4施設で構成され、地域で発生する未利用バイオマス資源を活用して電気・熱・CO₂、肥料などを生産します。これらを施設内で循環、さらには地域還元することで、エア・ウォーターのパーパスである「地球の恵みを、社会の望みに。」を具現化し、さまざまな企業などとの交流の場としての活用も行います。資源循環社会、脱炭素社会への貢献と事業拡大の両立を図ってまいります。



参照 <https://aw-megumi-farm.jp/>

介護福祉

梓の郷

エア・ウォーターグループは2000年より「社会福祉法人 梓の郷」の設立に携わって以来、社会貢献として運営支援を続けています。「梓の郷」は住宅型有料老人ホーム、グループホーム、企業主導型保育所など、長野県松本市で7拠点14事業所を運営しています。「わたらしく、いつまでも。」の理念のもと、介護だけでなく尊厳を尊重しながら暮らしていただけるよう、一人ひとりに寄り添った個別ケアを重視した支援を行っています。

長野県松本市で7 拠点 14 事業所 「梓の郷」の歩み



2000年、長野県松本市(旧・南安曇郡梓川村)に介護老人福祉施設を運営する社会福祉法人 梓の郷が設立。翌年には介護老人福祉施設「サルビア」が開所しました。当時はまだ珍しかった個室でプライバシーが保たれる「ユニットケア」を導入した先進的な施設で、その後も「サルビア」を中核に介護認定を受ければ利用できる住宅型有料老人ホームや居宅介護支援サービスなどを展開し、運営の幅を広げていきました。現在は専門性の高いスタッフとともに老人医療や精神医学の成果を取り入れながら、一人ひとりに寄り添ったサポートを実施。2018年には梓の郷の職員のみならず、地域の方も利用できる企業主導型保育所「さるびあ」を開園し、社会福祉法人として持続的な運営体制を整えた、質の高い介護サービスを安定的に提供しています。また、働きやすい職場づくりのための制度整備や、ICTを活用した先進的な取り組みによる職員の負担軽減と地域貢献が評価され、「2024年度介護労働安定センター理事長表彰」を受賞。週休三日制や時短勤務を取り入れるなど働き方改革を推進するとともに、地域に根差し、地域貢献ができることも職員の皆さまの働きがいにつながっています。

参照 <https://azusanosato.or.jp/>

エア・ウォーターグループは、介護現場を支える多彩な介護用品を展開しており、中でも介護用シャワー入浴装置「美浴」は、入浴者の心地よさと介助者の負担軽減を両立した商品として、全国の介護施設や病院などに導入されています。

Focus

シャワー入浴装置「美浴(びあみ)」 累計3000台以上を導入



入浴者の快適さを追求するとともに 尊厳を保持

「美浴」は、ストレッチャーや車椅子に乗ったまま、シャワーを浴びられるドーム型の入浴装置です。要介護者・介護職員双方にとって大きな負担になりがちだった入浴を省力化できます。プライバシーに配慮した設計に加え、静水圧のかからない構造とミストシャワーの洗浄効果により、肌にやさしく、毛穴の奥まですっきり洗い上げることが可能です。浴槽内の熱を逃しにくい独自のドーム構造によって、全身をしっかりと温め、お湯に包まれているかのような心地よい入浴体験を提供します。



入浴介助の負担軽減と 感染症対策を両立する介助環境の改善

介護施設の人手不足に対応する「美浴」は、従来2人必要だった入浴介助を1人で可能にします。湯気がこもりにくくマスクを着用したままでも快適に介助を行うことができ、ドーム構造とボディシャンプー機能により準備や洗身時間を短縮します。常に清潔なお湯を使うことで感染リスクを軽減し、密集や接触も防止。溺水や誤飲の心配も少なく、安心・安全な介助環境を実現し、介助者・入浴者双方にとって負担の少ない入浴を提供します。



従来の方式に比べて、 コスト・CO2排出量も削減

「美浴」は貯湯式と比べて約3分の1の湯量で運用できるため、上下水道代や光熱費の大幅な削減が可能です。給湯に必要な熱エネルギー由来のCO2排出量も約70%削減できます。介助時間の短縮によって必要な介助人数も減らせるほか、1人あたりの入浴時間が短くなることで、より多くの入浴者に対応できます。入浴者・介助者・経営者、それぞれにとっての満足度向上を目指した設計で、全国の介護施設や病院などに、累計3000台以上導入されています。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/contents06.html>

障がい者就労支援

就労継続支援A型事業所、 「エア・ウォーター・スマイル」を運営

エア・ウォーター東日本は、高齢者施設での洗濯や日常生活の補助業務を担う新会社「エア・ウォーター・スマイル」を長野県松本市に設立し、2022年1月1日より「就労継続支援A型事業所」※として運営を開始しました。障がい者の雇用創出と就労支援を進めるとともに、介護職の負担軽減やサービスの質向上を通じ、地域課題の解決に貢献してまいります。

※障害者総合支援法に基づき、一般企業での勤務が難しい65歳未満で障害や難病のある方が、雇用契約を結んだ上で一定の支援がある職場で働くことができる福祉サービスです。



洗濯物を丁寧にたたむ利用者



農業ハウスでトマトの苗を
プランターに植え付け

エア・ウォーターグループは、国内事業を推進する中核会社として、全国に3社の地域事業会社を展開しています。その一つであるエア・ウォーター東日本は、東北・関東・甲信越・中部を拠点に、産業ガスの生産・物流拠点を活用し、地域密着型の事業展開と課題解決に取り組んでいます。

一方、障がい者雇用では、都市部と地方で雇用機会に格差があり、地方では「働きたい仕事がない」「通勤が困難」といった課題が存在します。

こうした中、当社は長野県松本市で就労継続支援A型事業所「エア・ウォーター・スマイル」を開業。障がいや難病のある方を雇用し、支援を受けながら働ける環境を整備しました。高齢者施設の洗濯・清掃・買い物代行を担っています。また、同市にある資源循環モデル開発施設「地球の恵みファーム・松本」においても、陸上養殖プラントでの環境整備作業や農業ハウス内でのトマト栽培作業を受託しています。今後は対応施設や業務を拡大し、障がい者の働きがいや介護現場の人手不足解消にも貢献します。

エア・ウォーターグループは今後も地域課題の解決を通じ、SDGsの達成を目指してまいります。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/special-4082882690616881767.html>

Focus

長野県
松本市

松本市
「イベント用リユース食器リース事業」を受託



エア・ウォーター・スマイルは2023年9月、長野県松本市が公募した「イベント用リユース食器リース事業」の運営を受託しました。専用のリユース食器をイベント事業者に貸し出し、使用後に回収・洗浄して再利用することで、プラスチックごみの削減につなげます。

今後こうした地域課題の解決につながる受託事業を拡大するとともに、障がい者の新たな就労機会の創出や働きがいを生み出していきます。

スポーツ支援（地域マラソン大会への協賛）

エア・ウォーターグループは、マラソン大会への協賛を通じて、地域のスポーツ振興に取り組み、地域の皆さまのウェルネス（健やかな暮らし）の実現に貢献してまいります。

長野県 松本市

「松本マラソン」に協賛



エア・ウォーターグループは長野県、とくに松本市内で多くの事業を展開しています。地域とともに松本市を盛り上げたい思いから、第1回大会よりメインスポンサーとして協賛しています。



2024年度大会では、給水所にてゴールドバック製造のミネラルウォーターと、エア・ウォーター東日本のスティックおやきを提供しました。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/info/info4758538492008659937.html>

長野県 安曇野市

「信州安曇野ハーフマラソン」に協賛



エア・ウォーターグループは、安曇野市でさまざまな事業を展開し、地域とともに安曇野市を盛り上げ、地域活性化に貢献したいという想いから、第1回大会（2015年）より支援を行い、2023年からプラチナスポンサーとして協賛しています。



雄大な北アルプスを望む自然豊かなコースに、地元住民の温かい応援や地域の魅力あふれるエイドステーションなど、「おもてなし」の精神が息づいており、毎年全国から5,000人以上のランナーが参加する人気の大会です。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/info/info-2025050701.html>

兵庫県 宝塚市

「宝塚ハーフマラソン」に協賛



エア・ウォーターは、スポーツ振興など地域貢献活動の一環として「宝塚ハーフマラソン」に協賛しています。大会では、当社ロゴマークを胸に掲げた約5,000人のランナーが宝塚の街を駆け抜け、地域の活気と一体感を生み出しました。



毎年年末に開催される“走り納め”として親しまれている人気のマラソン大会で、地域住民や企業が一体となって盛り上げています。

アスリート社員

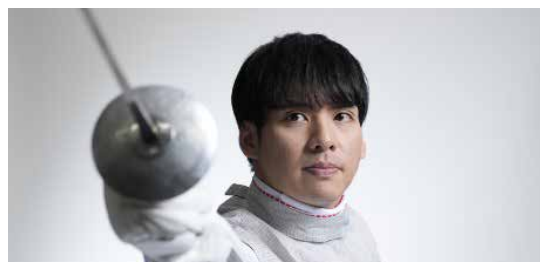


フェンシング日本代表として、兄妹二人三脚で世界に挑戦する上野優斗選手と上野優佳選手。

エア・ウォーターは2021年より、上野優佳選手とスポンサー契約を結び、フェンシング日本代表として世界への挑戦をサポートしてきました。上野優斗選手も日本代表として数々の国際大会に出場するなど、日本フェンシング界で大いに注目されている選手の一人です。

エア・ウォーターグループは、ひたむきに競技と向き合い、世界に挑戦する両選手の姿勢に共感。2024年3月の中央大学卒業を機に、両選手に当社初のアスリート社員として入社いただきました。グループを挙げてこれからも全力でサポートしてまいります。

選手Profile



上野優斗 選手

大分県出身。小学2年生の頃、コーチの父の影響でフェンシングを始める。2018年全日本フェンシング選手権大会で個人2位、翌2019年には個人3位という成績を収め、日本代表として数々の国際大会に出場するなど、日本フェンシング界における期待の選手の一人です。男子フルーレ国内ランキング5位（2025年10月時点）。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/athlete.html>



上野優佳 選手

大分県出身。小学2年生でフェンシングを始め、中学2年生で全日本選手権に初出場。シニア大会でも2019年のアジア選手権で団体戦優勝、個人2位、世界選手権で6位入賞。2020年4月、中央大学に進学後、東京2020オリンピックでは日本代表の最年少選手として、団体6位／個人6位入賞。パリ2024オリンピックでは日本女子フルーレ団体初の銅メダルを獲得。国内ランキング4位、世界ランキングは国内トップとなる5位（2025年10月時点）。

スポンサー契約



江村美咲選手

2021年より、フェンシング（女子サーブル）日本代表の江村美咲選手をスポンサーとして応援しています。パリ2024オリンピックでは、サーブル女子団体が初となる銅メダルを獲得するなど、ますますの活躍が期待されています。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/release/release-486920107120614987.html>



竹山柚葉選手

2025年より、フェンシング（女子フルーレ）日本代表の竹山柚葉選手をスポンサーとして応援しています。ワールドカップや世界選手権で上位に入賞し、日本ランキングは3位（2025年10月時点）、世界ランキングは最高位33位と、今後ますますの活躍が期待されています。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/athlete/news/news-2025022701.html>

全国の高校生によるフェンシング大会 「High School Japan Cup 2020」に協賛

「High School Japan Cup 2020」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったインターハイの代替大会として、フェンシングを中心とした有志のオリンピックが賛同し開催され、全国の高校生約180名が参加しました。

当社は、青春をスポーツに捧げ、ひたむきに努力を重ねてきた高校生たちに「頑張っていればチャンスはやってくる、誰かが見ていてくれる」ということを体験してもらいたい、そうした機会を提供したいという本大会の趣旨に賛同し、オフィシャルパートナー、ならびにオフィシャルサプライヤーとして協賛いたしました。

スポーツ支援

エアー・ウォーターグループは、学生や地域のスポーツチーム・大会への支援を通じて、地域社会の活性化と次世代の人材育成に取り組んでいます。

京都府

京都大学アメリカンフットボール部「GANGSTERS」に協賛



京都大学アメリカンフットボール部「GANGSTERS」は創部70年をかぞえる伝統ある学生アメリカンフットボール部であり、日本選手権では学生史上最多の4度の優勝を誇ります。GANGSTERSの、人材や環境の充実を図り、日本一という高い目標の実現のため競技に取り組む姿勢、小学生を対象にした運動教室や科学教室を開催するといった社会貢献活動に深く共鳴し、スポンサーとして協賛しています。

チームの選手やスタッフは、大学卒業後も社会をリードする人材として各方面で活躍していることから、学生スポーツへの支援は将来を担う人材育成の面でも意義のあるものと考えており、社会をリードする人材の育成に関する支援を行ってまいります。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/release/news-3526864979361751204/main/0/link/e50060ba53cd96a74ceba17067bc8174b3f0346f.pdf>

香川県

日本海水「香川オリーブガイナーズ」とスポンサー契約を締結



塩の製造・販売を行う、日本海水は、四国アイランドリーグplusに加盟する名門野球チーム「香川オリーブガイナーズ」とスポンサー契約を締結しています。

2025年に創設20周年を迎え、多くの選手を日本プロ野球機構(NPB)へ輩出してきた同球団の活動を支援することで、スポーツを通じた地域社会の活性化に貢献しています。地元とのつながりを深める取り組みとして、冠協賛試合の開催やユニフォームへの社名・ロゴの掲出、球場での自社商品の販売などを行っています。

参照 <https://www.nihonkaisui.co.jp/files/uploads/20250313guyners.pdf>

北海道

北海道エア・ウォーター・アグリ「旭川実業高等学校男子サッカー部」に協賛



2024年より、北海道エア・ウォーター・アグリは、地域貢献活動の一環として「旭川実業高等学校男子サッカー部」への協賛を開始しました。同校男子サッカー部は、インターハイや全国高校サッカー選手権大会などの全国大会に数多く出場する強豪チームです。

協賛の一環として、スポンサー企業のロゴ入りウェアも作成され、同校のグラウンドにはバナーも掲載されています。約120名の選手およびスタッフが、練習着や移動着としてロゴ入りウェアを着用しており、北海道内はもとより、夏季・冬季休暇中の道外遠征先においても、全国各地でその姿を目にする機会が増えています。

参照 https://www.footballnavi.jp/a-jitsu/news_view.php?kn=57413

鳥取県

大山ハム「全日本トライアスロン皆生大会」へ協賛



大山ハムは、毎年7月、日本トライアスロン発祥の地、皆生(かいけ)温泉をスタートする「全日本トライアスロン皆生大会」に協賛しています。2010年の第30回大会以降、継続協賛しており、優勝者への副賞(ハムセット)提供に加え、エイドステーションでのボランティアに大山ハムの従業員やその家族が参加しています。

芸術支援①

エア・ウォーターは、地域の文化振興に対する社会貢献の一環として、美術館や国際的な芸術祭への協賛を通じ、芸術・文化の発展を支援しています。

大阪府 大阪市

「大阪中之島美術館」に協賛



エア・ウォーターは2022年2月2日に大阪市北区にオープンした大阪中之島美術館に協賛しています。同館は、大阪の都市魅力を世界に発信する施設として、また、歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島の中心的かつ新しいシンボルとなる美術館として、大阪から全国へ、さらに世界に向けて人々の心を動かす創造力を発信する、新しい文化拠点です。

当社の前身会社の一社である大同酸素は、大阪で誕生し、産業ガスを祖業として地域に根差した事業を展開してきました。

創業以来、地域とともに成長してきた当社は、本美術館への協賛を通じて、地域の皆さまに芸術・文化を楽しんでいただける機会を提供し、関西企業として大阪を起点とする文化芸術の発展に貢献してまいります。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/sustainability/news/news-3694915306939389903.html>

長野県 松本市

音楽祭 「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」に協賛

長野県および松本市が中心となり、1992年以降毎年夏に開催されている「セイジ・オザワ松本フェスティバル」は、世界中から志の高い優れた音楽家たちが結集し、オペラやオーケストラなど多彩な演目が披露される音楽祭です。創設者である小澤征爾氏は、現在「永世監督」として名を残し、その精神と芸術性は次世代を担う若い音楽家たちに受け継がれています。

エア・ウォーターは2007年より本イベントを支援しており、2018年からは「特別会員」として協賛しています。市民から大きな支持を受ける地域共生型イベントへの貢献を通じて、地域の一体感の醸成や自治体との良好な関係構築に寄与しています。



▲セイジ・オザワ「松本フェスティバル」
パンフレットイメージ

芸術支援②

エア・ウォーターは、地域の文化振興に対する社会貢献の一環として、美術館や国際的な芸術祭への協賛を通じ、芸術・文化の発展を支援しています。

長野県 大町市

「北アルプス国際芸術祭」 への協賛



「北アルプス国際芸術祭」は、長野県大町市で3年に1度開催される国際アートフェスティバルです。現代アートと伝統的な食文化を生かし、大町市や北アルプス山麓の地域資源の魅力を積極的に発信することで、地域経済の活力再生を促し、観光誘客の拡大、大町市のブランド力向上などの地域活性化につなげるイベントです。エア・ウォーターはイベントの開催趣旨に賛同し、2017年度から協賛を開始。重点地域である信州で開催される地域共生イベントへの参画で、地域社会との良好な関係を長期にわたって築いています。

参照 <https://www.pref.nagano.lg.jp/hisho/kensei/soshiki/soshiki/bukaigi/documents/20240920sonota2.pdf>

長野県 松本市

「信州・まつもと大歌舞伎」 への協賛



「信州・まつもと大歌舞伎」は、長野県松本市で隔年開催される歌舞伎のイベントで、松本市が地域の活性化を図り、松本市の魅力や町の賑わい創出を目的にスタートさせた事業です。松本市民芸術館を中心に行われ、伝統的な歌舞伎の演目に加え、新作歌舞伎や舞踊も披露されます。エア・ウォーターは2008年の第1回より継続して協賛しており、地域の文化や芸術を支援することで、地域社会の発展や次世代への文化継承を促進し、地域の文化的価値を高めています。また、松本市にはエア・ウォーターグループの拠点が集積し、さまざまな事業を展開していることから、包括連携協定も締結しています。

参照 <https://www.matsumoto-kabuki.com/>

三重県 亀山市

「亀山トリエンナーレ」 への協賛



「亀山トリエンナーレ」は、三重県亀山市で開催されている現代美術の祭典で、2008年から2013年まで毎年開催されていた「アート亀山」が前身です。芸術文化の振興と街の活性化を目的に新人作家の発掘や国際交流の促進に力を注いでおり、エア・ウォーターは2022年より継続して協賛しています。コロナ禍の中、一時延期されることもありましたが、その後は定期的に開催されており、次回開催は2027年秋を予定しています。

参照 <https://kameyamatriennale.com/>

大学との連携①

エア・ウォーターは大学との産学連携を通じて、双方が持つ英知を結集し、持続可能な社会の実現に向けた研究を推進するとともに、次世代人材の育成に取り組んでいます。

東京大学 生産技術研究所と 「IoT センシング解析技術」社会連携研究部門を設置



東京大学 生産技術研究所とエア・ウォーターは、2020年12月1日より「IoTセンシング解析技術」社会連携研究部門を設置いたしました。

農業・食品分野および医療分野における研究開発を推進し、農産物・食品・エネルギーの持続的供給や、超高齢社会における医療・介護といった社会的課題の解決に貢献することを目指しています。

「IoTセンシング解析技術」社会連携研究部門の成果を発表

収穫に適した時期（収穫適期）を高い精度で「予測」する技術と、農業生産性の向上に有効な「観察」する技術に関する共同研究成果を2024年5月16日に発表。気温データの収集のみで最も重要な指標である収穫適期に特化した予測モデルを応用し、ブロッコリーの収穫適期を2.5日未満の精度で予測することに成功しました。

品質低下防止はもとより、収穫適期逃しによる食品ロスの低減が期待されます。また、「観察」技術により収穫数/量が精度高く予測できるモデルを提供し、農業の担い手不足の課題解決のため、収穫に関わる機材や人員、集荷などの最適化を図り、生産性の向上を目指していきます。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/release/news-5509478013203832791/main/0/link/6f93f2c451b82477ece1243d278d947a17206a2e.pdf>

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-2024051601.html>

北海道大学と連携協定を締結し、 「協働教育研究支援（給付型奨学金）プログラム」を導入



国立大学法人北海道大学とエア・ウォーターは、2024年12月6日に連携協定を締結しました。本件は両者の共創により、グローバル社会や地域社会で活躍できる人材を育成するとともに、地域と世界の将来を見据えた課題解決を推進することで、持続可能な発展やWell-beingの実現に貢献することを目的とする包括的な産学連携となります。本連携に基づいて実施する「協働教育研究支援プログラム」では、北海道大学に在学する学生に対して研究に専念できる環境を整える給付型奨学金や研究費をエア・ウォーターが寄附し、優秀な人材の育成、研究の質向上を図っていきます。

「協働教育研究支援（給付型奨学金）プログラム」支給対象者を決定

「協働教育研究支援プログラム」の実施初年度となる2025年度の支給対象者3名が決定し、6月26日に北海道大学にて奨学生証授与式が執り行われました。同大学の大学院修士課程に在学する学生に対する経済的支援を通じて、優秀な人材を育成し、教育の質、研究の向上を図るとともに、我が国及び世界の発展に貢献していきます。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/release/news-2024120601.html>

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/release/news-2025063001.html>

大学との連携③

エア・ウォーターは大学との産学連携を通じて、双方が持つ英知を結集し、持続可能な社会の実現に向けた研究を推進するとともに、次世代人材の育成に取り組んでいます。

エア・ウォーターが神戸大学と 「包括的な産学連携推進に関する協定」 を締結 「エア・ウォーター奨学金(神戸大学基金)」 を設立



神戸大学とエア・ウォーターは2021年12月24日、両者の知識・技術を共有し、研究・技術の発展と社会貢献を目的とした「包括的な産学連携推進に関する協定」を締結しました。神戸大学の複数研究室が持つ研究シーズと、当社の「地球環境」「ウェルネス」分野の事業ニーズを組み合わせ、実用化を加速。社会課題の解決と人材育成を目指します。2024年度には「エア・ウォーター奨学金」への寄付をもとに奨学金制度を設立。2028年度までの5年間、毎年学生を募集・支援し、次世代とともに未来を築きます。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/info/info-2024102101.html>

エア・ウォーターと関西大学が 健康寿命の延伸を目指して連携協力協定 を締結



エア・ウォーターは人生100年時代の健やかな暮らしの実現に向けて、関西大学と連携協力協定を2022年10月11日に締結しました。健康寿命の延伸を目指して、医療や健康づくりに関わる研究、教育、人材育成、地域連携等について相互に協力し、双方の発展と充実に寄与する連携活動を推進していきます。本協定を機に、相互の人的、知的、物的資源の交流と活用を図り、医療・ヘルスケア産業の発展や健康づくりに関する取り組みを進めていきます。また、健康医療のまちづくりに寄与すべく、地方自治体や企業、NPOなどと協力し、研究・社会実証、人材育成プログラムの開発等を行うリビングラボの運営についても連携します。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-1000523293350603140.html>

エア・ウォーター、エア・ウォーター東日本と 松本大学が「健康づくり関連事業」に係る 連携協定を締結



エア・ウォーター、甲信越エア・ウォーター（現・エア・ウォーター東日本）は、松本大学との間に、健康増進や福祉関連にかかる実証研究および企業の健康経営支援を目的とした「健康づくり関連事業」にかかる連携・協力に関する協定を、2018年9月18日に締結しました。本締結により、松本大学が行う健康づくりの実証的研究を通じて、福祉介護における運動指導などの専門分野に関する知見の獲得や、従業員の健康増進を目的とした各種プログラムを開発。地域社会に寄り添った健康づくり関連事業を展開することで、松本市が推進する「健康寿命延伸都市構想」において掲げる、誰もが健康でいきいきと暮らせる地域づくりへも貢献しています。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/release/news4245270267440440877/main/0/link/cd64d9a1470ae546f810fbdce423e1a62caa0a13.pdf>

教育支援

エア・ウォーターグループは、次世代を担う若者たちの学びと挑戦を応援するため、全国各地で教育支援活動を展開しています。「農業」「科学」「技術」など多様な分野での学びの機会を提供し、地域社会とのつながりを育んでいます。

北海道

「花フェスタ」に協賛、道内の農業高校生が腕を競う「ガーデニング甲子園」を応援



北海道の農業の未来を担う高校生に、活動の場を提供したい—そんな想いから、エア・ウォーターとエア・ウォーター北海道は2021年より「花フェスタ」への協賛を通じて、道内の農業高校生が腕を競う「ガーデニング甲子園」を応援しています。1993年に始まった「花フェスタ」は、初夏の札幌大通を彩る花と緑のイベントとして地域に親しまれおり、「ガーデニング甲子園」では北海道内の農業高校生が自校で育てた花苗や花器を使って作品を制作し、入賞を目指して技術と創造力を競い合います。同イベント期間中には、エア・ウォーターのブースも展開しており、グループの事業紹介や商品提供などを通じて、地域の方々とのつながりを育む機会としています。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/info/info-06404736924010417216.html>

北海道

「キャンパスベンチャーグランプリ北海道」に協賛



エア・ウォーターは、「キャンパスベンチャーグランプリ北海道」に第1回より協賛し、審査委員会メンバーとしても参加しています。同グランプリは、北海道内の学生による新技術や事業アイデア、ビジネスプランを表彰することで次代を担う人材の起業家精神や課題解決力の育成を目的としています。若い世代の挑戦が、地域社会や北海道経済の活性化につながることを期待し、継続的に支援してまいります。

参照 <https://cvg.nikkan.co.jp/>

山口県

「青少年科学館ソラール」における実験教室に協力



エア・ウォーターグループは、山口県防府市の体験型施設「青少年科学館ソラール」で開催される夏休みの実験教室「サイエンスアカデミー」に、2011年から協力しています。エア・ウォーター西日本、エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル、近隣企業の3社が共同で、「-196℃の超冷たい世界体験」と題した液体窒素を使った実験などを実施。科学の面白さを子どもたちに伝えるとともに、講師を務める社員にとっても、技術力や創意工夫を磨く貴重な機会となっています。こうした活動を通じて、地域の子どもたちに科学への関心を育み、地域とのつながりを大切にしています。

大阪府

関西サイエンスフォーラムが主催する高校生向け講演会に協力



エア・ウォーターは、関西サイエンスフォーラムが主催する高校生向け講演会に協力し、2023年7月、大阪府立高津高等学校（大阪府天王寺区）にて、代表取締役社長・松林良祐が登壇しました。関西サイエンスフォーラムは、次代を担う科学技術系人材の育成を目的に、関西圏の高校生と先端技術を持つ企業との交流の場を提供しています。講演では、エア・ウォーターの事業を通じて「机上の勉強」と「現実世界」のつながりや、これから求められる人材像、高校生に大切にしてほしい考え方について紹介されました。75名の高校生が参加し、科学技術の現場に触れる貴重な機会となりました。今後も若い世代の学びと挑戦を応援してまいります。

参照 <https://kozu-osaka.jp/cms/wp-content/uploads/2023/08/88e24f71b8ce045b046982a6ded6b4e0.pdf>

自然保護、美化・緑化

エア・ウォーターグループは、地域に根ざした森林保全活動（企業の森づくり活動）を通じて、循環型社会の実現と自然環境の再生に取り組んでいます。グループ各社がそれぞれの地域で自然保護・美化・緑化活動を展開しており、こうした取り組みは、環境意識の醸成と地域振興の両立を図る、持続可能な未来への一歩と位置付けています。

長野県
安曇野市

「安曇野エア・ウォーターの森」
森林保全活動を通じて、循環型
社会の実現と地域振興に寄与



エア・ウォーターは、長野県安曇野市堀金地区の市有林を「安曇野エア・ウォーターの森」と名付け、ミズナラの苗木約300本を植えるなど、森林保全に取り組んでいます。周辺にはグループの事業拠点があり、「エア・ウォーター農園」では、間伐材などを活用したバイオマス発電の熱とCO₂でトマト栽培を実施。こうした循環型の取り組みを地域振興にもつなげるため、「緑の募金」への寄附も継続し、「循環する森づくり」を進めています。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/sustainability/news/news-2254719310374953170.html%20>

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/special8862064361043075728.html>

長野県
安曇野市

「ゴールドバック
常念湧水の森林（もり）」
保全活動を通じて地域と森林育
成に貢献



ゴールドバックは、2022年4月に長野県安曇野市と「森林（もり）の里親」契約を締結しました。1991年に安曇野市堀金烏川に工場を設立して以来、地域の自然と共生しながら事業を展開してきた同社は、工場周辺の水源域である烏川渓谷緑地の環境保全を目的に、森林保全活動を開始しました。「ゴールドバック常念湧水の森林（もり）」の保全活動は、新入社員や従業員の教育・交流の場としても活用されており、地域貢献の一環として、地域やお取引先の皆様とともに、次世代へ継承できる森林の育成を目指して植樹などの取り組みを進めています。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-3101048765821084216.html>

兵庫県
宍粟市

「日本海水の森」
整備・保全を通じて豊かな森づく
りに貢献



日本海水は、兵庫県立国見の森公園の山林約3ヘクタールを「日本海水の森」と名付け、森林の整備・保全に取り組んでいます。海の恩恵を受けて事業領域を拡大してきた同社が、海と山を一体と捉えた環境保全の重要性を象徴する取り組みとして、従業員の環境意識向上も目的に、樹木の植栽、下草刈り、間伐、遊歩道整備などをCSR活動の一環として実施し、豊かな森づくりに貢献しています。

参照 <https://www.nihonkaisui.co.jp/csr>

参照 https://hyogo-green.net/forest23_03.html

農水産物直売所「産直市場よってって」



「産直市場よってって」は和歌山県、大阪府、奈良県を中心に計33店舗（2025年9月時点）を展開する農水産物直売所です。

地場産品を中心に品ぞろえした「旬で美味しく食べられる商品が魅力的な価格で買える店」をコンセプトに、四季折々の産物がそろそろ季節感あふれる店舗を展開しています。

スーパーとは違い、生産者自らが値段を決め、収穫後に直接店舗へ出荷・陳列しています。そのため、新鮮な野菜や果物、花などを市場を通さずに直接購入できるとともに、農業・漁業従事者の収入を増やし、第一次産業と地方経済の活性化を目指しています。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/special-70939585463943367774.html>

アグリサポート事業（農作業代行）



北海道エア・ウォーター・アグリが展開する「アグリサポート事業」は、農業の現場が直面する深刻な課題である高齢化や担い手不足に対し、農作業の代行を通じて支援を行う取り組みです。

北海道十勝地方、千歳市周辺、上川地方（名寄市・上富良野町）を中心に展開され、東京ドーム83個分に相当する約390haの農地で多様な作物の収穫を支援しています。特にかぼちゃは実のつき方から収穫が困難で、手作業による対応が必要であり、高齢農家にとって大きな助けとなっています。

生産者とのつながりを活かし、周辺自治体や地元学校の農業プロジェクトへの参画や農場体験なども行っており、2023年度には帯広農業高校の宇宙食開発プロジェクトに対し、レトルト加工技術の提供や試作支援を行いました。

こうした取り組みは、地域の農業振興と次世代育成の両面で大きな意義を持っています。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/special/special-150449056113943489951.html>

エア・ウォーターグループは、地域社会との共生を目指し、災害支援をはじめとする社会貢献活動に継続的に取り組んでいます。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を願い、支援を通じて地域の再生に貢献してまいります。

コロナ禍における 医療用酸素濃縮器の供給



エア・ウォーターグループは、2021～2024年の新型コロナウイルス感染拡大期に、医療用酸素濃縮器の安定供給体制を構築。従来比約40%の増産体制を整え、在宅酸素療法患者への供給を継続するとともに、自治体からの要請にも対応しました。2021年には、日本政府の要請に基づき、JICAや日本財団を通じてインドへ300台を緊急提供。現地ではインド政府の指示により医療用酸素の増産にも協力しました。日印パートナーシップの一環として、松林社長がモディ首相と面談し、コロナ禍における医療用酸素供給での貢献について直接謝辞を頂きました。今後も社会的責任を果たし、感染症対応に貢献してまいります。

参照

<https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-6194656840989619616.html>

参照

<https://www.awi.co.jp/ja/news/release/release-5229138004621006411.html>

LPガスを発電燃料とした 移動電源車を開発



エア・ウォーターグループは、2011年3月に発生した東日本大震災の教訓からLPガスを燃料とする「移動電源車」を開発。

2012年には100kW級のコンテナタイプを完成させ、その後も小型・中型タイプを展開し、2016年の熊本地震や2018年の北海道胆振東部地震など多くの災害現場で活用されました。お客様への納入分を含めて、全国に34台を配備。LPガスは災害時でも供給しやすく、避難所や福祉施設などへ電力を提供し、ライフライン維持に貢献しました。今後も災害時のエネルギー確保に向けた技術開発を進めていきます。

参照

<https://www.awi.co.jp/ja/special/contents01.html>

エア・ウォーター東日本がJICAより 「医療機材管理・保守」研修の実施を受託



エア・ウォーター東日本 福島医療営業所メディサングループは、独立行政法人国際協力機構（JICA）より課題別研修「医療機材管理・保守」コースの実施を受託しています。安全で質の高い医療サービスがそれぞれの国で提供されるべく、診断や治療に不可欠な医療機材の適切な管理・保守の方法を学びます。

各国から選抜されてきた保健省や主要病院の機材管理担当者は福島県郡山市の研修所に約2か月間滞在し、「計画的予防保守」「安全管理」などの講義、協力メーカーによる実習に加え、病院や工場見学により、技量そして指導力の向上を目指します。

2025年度は計45か国から59名を受入予定です。1984年からの研修を通じて、累計1,000名を超える方々が郡山の地で学びを深めています。

2023年9月には本研修の実績が称えられ、郡山市より国際親善・交流の発展と開発途上国の医療技術の進歩に寄与した功績に対し表彰されました。

今後も、SDGs 3「すべての人に健康と福祉を」の達成に取り組んでまいります。

災害への寄付、医療インフラ支援、防火・防災啓発

エア・ウォーターグループは、地域社会との共生を目指し、災害支援をはじめとする社会貢献活動に継続的に取り組んでいます。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を願い、支援を通じて地域の再生に貢献してまいります。

北海道 平成30年北海道胆振東部地震に対する支援

エア・ウォーターは、平成30年北海道胆振東部地震により震災の被害を受けた地域の復興支援にお役立ていただくため、北海道庁に対し1億円の寄付をいたしました。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/release/news-5751484735852600351/main/0/link/1270e4e839ea85f9a1f8d2229bf7177dc1c61fa6.pdf>

沖縄県 首里城未来基金(沖縄県首里城歴史文化継承寄附金)への寄附

エア・ウォーター西日本は、沖縄県豊見城市に事業拠点を構え、医療・産業用ガスの供給をはじめとする多様な事業を展開しています。沖縄県に初めて事業拠点を設立した2020年より、県民の皆さまの心の拠り所である首里城の復興支援として、「首里城火災復旧・復興支援寄附事業」に対する継続的な寄付を行ってまいりました。2020年および2021年には、それぞれ1,000万円の寄附。2022年12月には、同様の趣旨で新たに創設された「首里城未来基金(首里城歴史文化継承寄附金)」を通じて、沖縄県に1,000万円を贈呈し、累計3,000万円の支援を実施しています。

今後も、沖縄の伝統・文化を尊重しながら、地域社会への貢献を続けてまいります。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/sustainability/news/news-00558986175452600970.html>

石川県 令和6年能登半島地震に対する支援

エア・ウォーターグループは、令和6年能登半島地震により被災された地域の復興支援にお役立ていただくため、日本赤十字社を通じて1,000万円を寄付いたしました。

また、被災地への医療用酸素の安定供給に向けて、災害対策専用の医療用酸素および酸素濃縮装置を供給しました。さらに、カセットコンロ用ボンベ約2,000本を無償提供したほか、歯愛メディカルが、石川県歯科医師会等を通じて、歯ブラシ、除菌ウェットティッシュ、洗口液などの物資を無償提供しました。

参照 <https://www.awi.co.jp/ja/news/release/news-24160354333051619925.html>

台湾 「2024年台湾東部沖地震救援金」への寄付

エア・ウォーターグループで半導体製造薬品、化学工業薬品などの販売および輸出入を行うエア・ウォーター・マテリアルは、2024年4月3日に発生した「2024年台湾東部沖地震」により被災された地域の復興支援にお役立ていただくため、日本赤十字社へ義援金として200万円を寄付いたしました。

参照 <https://www.aw-mt.com/info/20240510.html>

有事における医療コンテナ活用

エア・ウォーター防災は、医療コンテナを通じて、災害時・平常時を問わず医療インフラの維持・支援に取り組んでいます。

医療コンテナは、災害発生時に迅速に設置できることが大きな特長で、被災地における初期医療の提供に貢献しています。堅牢な構造と高い機動性を兼ね備えているため、さまざまな現場に柔軟に対応可能です。また、高い隔離性と気密性を有しており、感染症対策にも有効で、安全な医療環境を確保することができます。

能登半島地震の際に現地へ医療コンテナを派遣し、医療支援を実施しました。その他にも、各地の災害対応に出動し、医療体制の確保に大きく貢献しています。また、災害時だけでなく、医療が届きにくい地域においても活用されており、地域医療の支援にも役立てられています。



エア・ウォーター防災、「大阪の消防大賞」に協賛

エア・ウォーター防災は、大阪府内で顕著な功績を挙げた消防職員や消防団員を表彰する「大阪の消防大賞」に協賛しています。大型クレーン車横転事故での救助や火災現場での人命救助、地域での防火・防災啓発活動など、地域の安全を守るために尽力した個人や団体の功績を広く称えています。2025年8月には、兵庫県三木市で開催された「第53回 全国消防救助技術大会 in 神戸」にも協賛。本大会は、全国の消防救助隊員が日頃の訓練成果を競い合う場であり、技術向上と防災意識の普及を目的としています。会場では、消火器体験や地震体験車両の展示など、来場者が防災を身近に感じられる企画も実施され、地域の安全・安心に寄与しました。

海外支援

エア・ウォーターグループは、世界各地で地域社会と共に歩む企業として、教育支援、医療支援、生活環境の改善など、多岐にわたる社会貢献活動を展開しています。

インド 若者向けの職業訓練を支援



エア・ウォーターグループはインドにおいて、2019年にグループ会社のエア・ウォーター・インドアを通じて産業ガスメジャーから事業の一部を取得。強みであるガスプラントエンジニアリングおよびオペレーション技術に省エネ・脱炭素・安定供給などの付加価値を組み合わせ、事業成長を目指しています。

同社は社会貢献活動を積極的に実施しており、インド工科大学のOBが立ち上げたPan IIT Alumni Indiaが実施する、経済的に恵まれない若者向けの職業訓練を支援しています。さらに医療分野での雇用を目的とした技能開発プロジェクトや、NSDC（国家技能開発公社）のカリキュラムに基づく技能訓練を実施するとともに、公立学校教育を支援するため、同国ベッラーリ州の4校に飲料水設備一式、トイレ改築工事を無償で提供しました。

米国（アメリカ） がん研究・支援団体をサポート



2016年から世界最大の産業ガス市場であり、イノベーションが盛んな米国をターゲットとして、海外展開を開始しました。米国内では、医療・健康分野を中心に社会貢献活動を展開しています。産業ガスのディストリビューターであるNoble Gas SolutionsではAmerican Cancer Society (ACS) への支援で、がん研究資金の提供や患者・家族向けのホットライン、交通・宿泊支援、禁煙・早期発見の啓発活動などを通じて、治療の進歩と精神的・経済的負担の軽減に貢献しています。また、乳がん支援団体とはカウンセリングや医療用ウィッグの提供、検診啓発活動などを協力し、地域での支え合いの文化を育んでいます。

さらに、クレイ射撃大会を通じたチャリティイベントを支援し、楽しみながらできる支援の輪を広げています。糖尿病分野では「Tour De Cure」への協賛を通じて、募金活動や教育プログラム、予防啓発などを支援し、地域の健康促進に寄与しています。

エクアドル 農村地域への教育支援



南米エクアドルでは、冷凍野菜の製造販売会社Ecofroz S.A.（エコフロス社）において、農村地域への教育支援をはじめ、高齢者施設に向けた支援、食糧支援活動、過疎地域における建造物の修繕（屋根の修理やトイレの改修など）など、生活の基盤を支える取り組みを継続的にを行っています。

また、エコフロス社が運営する託児所では、クリスマスの時期に子どもたちへプレゼントを届ける活動を実施。エア・ウォーター協賛のもと、地域の子どもたちに笑顔と温もりを届ける取り組みとして、現地の皆さまとの心のつながりを育んでいます。

さらに、エクアドル政府が推進する新型コロナウイルスのワクチン接種事業に対しても寄附を行い、感染症対策の一助となる支援を実施しました。